

第Ⅰ章

みやぎ心のケアセンター

活動状況

1. 各部署の取り組み

- ・・・ 気仙沼地域センター 地域支援課
- ・・・ 石巻地域センター 地域支援課
- ・・・ 基幹センター 地域支援課
- ・・・ 基幹センター 企画調整部

2. 協力機関・団体等の取り組み

- ・・・ 医療法人東北会 東北会病院
- ・・・ 東北大学大学院医学系研究科予防精神医学寄附講座
- ・・・ NPO 法人 宮城県断酒会
- ・・・ 日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会
- ・・・ サポーターズクラブ

3. 平成 26 年度事業項目別活動状況

用語解説

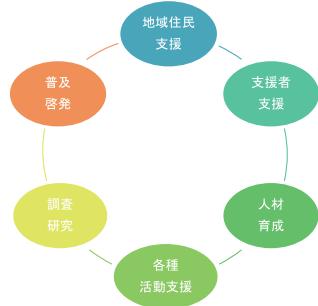
※紀要内での解釈

アウトリーチ	専門職が地域に出向き、サービスを必要としている人に対し て、利用可能なサービスの情報を提供する訪問支援活動のこと。個別訪問や集会の場に出向き、潜在化しているニーズを発見することも含まれる。
アサーション	コミュニケーションスキルのひとつであり、適切な自己表現が できるようになるための技術のこと。
エンドポイント	治療行為の有効性を示すための評価項目のこと。
プライマリ・ エンドポイント	主要評価項目。臨床試験において目的とする評価項目であり、 薬理学的、臨床的に意味のある客観的評価可能な項目が用いられる。
セカンダリ・ エンドポイント	副次的評価項目。治験の主要な評価項目以外の効果を評価する ための項目であり、必ずしもプライマリ・エンドポイントとの 関連性があるとは限らない。
エンパワメント	個人や集団が問題を改善する力を高め、問題解決能力を取り戻 していくこと。また引き出していくこと。
応急仮設住宅	災害救助法に定められたもので、いわゆる『プレハブ仮設住宅』 と、その不足等を補うため民間の賃貸住宅を応急仮設住宅とし て提供する『民間賃貸借上住宅（みなし仮設）』がある。
オッズ（比）	ある事象の起こりやすさを2つの群で比較して示す統計学的 な尺度。オッズ比が1とは、ある事象への起こりやすさが両群 で同じであり、1より大きいと、事象の起こりやすさがある群 においてより高いことを示す。逆に小さいと、ある群において 事象が起こりにくいことを示す。
KJ法	資料・情報の整理分析方法の一つ。収集した資料の記録をカー ド化し、本質的に似た内容のものをグループ化して情報を整理 すること。
ケースカンファレンス	事例検討会。専門職がお互いの基本的視点を理解し合い、援助課 題を共有し、それぞれが効果的に事例に対応できることを目的と する会議のこと。

健康調査	震災後様々な健康問題の発生が懸念されることから、仮設住宅入居者の健康状態を把握し、要フォロー者を必要な健康支援事業に結びつけるとともに、施策展開の基礎資料とすることを目的として実施した調査で、宮城県及びプレハブ仮設住宅・民間賃貸借上住宅を管理する自治体の共同実施により行われているものと、自治体が独自に行っているものがある。
コンサルテーション (コンサルティション)	異なる専門職間で行われる、対等で上下構造のない関係に基づく相談や協議のこと。自身が担当する対象者に社会福祉サービス等を提供するにあたり、他の専門領域から助言を求める際に行われる。
PFA (Psychological First Aid : サイコロジカル・ファーストエイド)	災害やテロ等の緊急時に、被災者の精神的苦痛を悪化させないよう支援にあたり、必要なニーズへつなぐ心理社会的支援の手法のこと。
サポートセンター	市町のサポートセンターは、プレハブ仮設住宅や民間賃貸借上住宅等に入居する高齢者、子育て世帯などが安心して暮らせるよう、総合相談や生活支援等を行う。宮城県サポートセンター支援事務所は、被災市町がサポートセンターを設置・運営するにあたり、運営についてのノウハウ提供やスタッフの人材育成などの支援を行う機関のこと。
自己効力感	ある課題に直面したとき、自分にはそれが実行可能であるという自己に対する期待や自信のこと。
縦断的研究	同一の個人や集団を長期にわたって継続的に追跡し、どのような発達や変化が起きているかについてデータを収集する方法。個別的・経年的な発達の経過を明らかにできるが、時間や労力がかかり、多数のデータを集めるのが難しい。
スクリーニング	特に健康な人も含めた集団から、目的とする疾患に関する発症者や発症が予測される人を選別する医学的手法をいうことから、震災後に行われている健康調査などによって、支援が必要な人を把握することを意味する。
ステイグマ	他者によって否定的な意味を与えられ、社会的に十分に受け入れられる資格を剥奪された結果、偏見や差別につながるもの。
スーパービジョン/ スーパーバイズ (略語 : SV)	経験を積んだ専門家が客観的な視点をもって、経験の浅い専門家に対して、より良い実践が出来るよう事例に関する専門的な助言・指導を行うこと。

セルフヘルプグループ (自助グループ)	病気や障害などの生活上の困難を抱える本人やその家族が、共通の問題を抱える人々と自発的に結びつき、相互に援助し合う集団のこと。日本におけるアルコール関連問題に関する自助グループについては、アルコホーリクス・アノニマス (AA: 無名のアルコール依存症者たち) および断酒会の2つが挙げられる。
ハイリスクアプローチ cf.ポピュレーション アプローチ	ある病気などになる危険性が高い人を対象とし、その危険度を下げるような働きかけをして予防すること。
ファシリテーター	教育機関や企業、行政、医療福祉など様々な分野で行われる会議やグループワークの場で、進行役となり、参加者の話し合いや学習がスムーズに進行するよう支援や補助を行う者を指す。
ポストベンション	事後対応のこと。集団の中で自死が生じた場合、遺された人々の心理的影響を可能な限り少なくするための対策のこと。
ポピュレーション アプローチ cf.ハイリスクアプローチ	集団全体を対象とし、多くの人々が少しずつリスクを減らすことで、集団全体のリスクを下げ、良い方向にシフトさせていくという方法のこと。
レジリエンス	『精神的回復力』や『復活力』『耐久力』などと訳される心理学用語で、失敗や挫折をしても、立ち上がって成長する回復力のこと。

みやぎ心のケアセンターは、以下の6つの事業を柱として活動している。本紀要においても、主として以下の事業項目ごとに報告を行った。



地域住民支援

- 被災者に対する精神疾患の予防やメンタルヘルスの改善を目的とした相談・支援
- 被災者に対する相談支援活動（面接相談、電話相談等）
- 被災地住民等を対象としたイベントの企画・運営

支援者支援

- 市町職員や仮設支援員等の支援者を対象とした精神保健活動および心身の健康の維持を目的とした支援
- 自治体への専門職員派遣
- コンサルテーション、スーパービジョン、ケース会議への参加
- 支援者対象の心の相談窓口の開設 事務作業支援

普及啓発

- 心の健康に関する情報発信および啓発
- 一般住民向け研修会・講演会
- 被災地住民等を対象としたサロン活動
- 啓発用パンフレットの作成・配布、広報誌・ホームページ等による情報発信

人材育成

- メンタルヘルスに関わる専門職や支援者を対象とした知識の普及と研修
- 震災後のメンタルヘルス研修 支援スキル関連研修 事例検討会
- 震災心のケア交流会、メディアカンファレンスの開催

各種活動支援

- 各種支援団体と連携し活動を支援することを目的とした共催・後援等

調査研究

- 被災地や被災者の状況を把握するための調査・研究